

平成27年度 次世代インフラ戦略協議会の進め方

平成27年12月25日
次世代インフラ戦略協議会事務局

1. 科学技術に関する基本的な政策

科学技術基本計画(5年)
国内外の情勢を踏まえ、科学技術の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図る基本的な計画

科学技術イノベーション総合戦略(毎年)
科学技術基本計画を達成するために毎年作成する、府省庁の施策をまとめた総合的な戦略

2. 科学技術予算・人材の資源配分など

科学技術重要施策アクションプラン(AP)
科学技術イノベーション総合戦略を実行するために、重点的な取り組みとして特定した府省庁の施策(予算)

3. 国家的に重要な研究開発の評価など

第4期：2015年度(平成27年度)まで
第5期：2016年度(平成28年度)から2020年度(平成32年度)

総合戦略2015は、2016年度(平成28年度)予算のアクションプラン施策で実行する



重要課題専門調査会で審議する

重要課題専門調査会におかれる戦略協議会等の体制

総合科学技術・イノベーション会議

重要課題専門調査会

エネルギー
戦略協議会

次世代インフラ
戦略協議会

新産業
戦略協議会

農林水産
戦略協議会

エネルギー・
環境
イノベーション
戦略策定
WG

環境WG

地域における人とくらしのWG

システム基盤技術検討会

ナノテクノロジー・材料基盤技術分科会

- 戦略協議会は、第5期基本計画策定の検討を軸としている総合戦略2015に示された課題に基づき設置。
- 第5期基本計画第2章に示される基盤技術については、システム基盤技術検討会で検討。
- 「地域における人とくらしのWG」は、医療・介護等の専門的な内容を含む協議のためにWGを設置。
- 「世界最先端の医療技術の実現による健康長寿社会の形成」は健康・医療戦略室で実施。
- 地球温暖化対策推進本部およびCOP21における総理指示に対応する、エネルギー・環境イノベーション戦略策定WGを設置。

平成27年度の体制

- 戦略協議会は、重要課題の議論をまとめ、専調に報告する。
- WGは、戦略協議会と連携し、議論をまとめ、専調に報告する。



平成26年度の体制

平成27年度 重要課題専門調査会の審議

- ◆ 重要課題専門調査会は、科学技術基本計画と総合戦略に掲げられた当面取り組むべき重要な課題並びに今後さらに取り組むべき課題について調査・検討を行う。

科学技術イノベーション総合戦略2015
経済・社会的課題の解決に向けた重要な取組

- ① クリーンで経済的なエネルギーシステムの実現
 - エネルギーバリューチェーンの最適化
 - 地球環境情報プラットフォームの構築
- ② 国際社会の先駆けとなる健康長寿社会の実現
基礎研究から優れたシーズを見出し、実用化へ一貫して繋ぎ、具体的な成果を目指す等
- ③ 世界に先駆けた次世代インフラの構築
 - 効率的かつ効果的なインフラ維持管理・更新の実現
 - 自然災害に対する強靱な社会の実現
- ④ 我が国の強みを活かしてIoT等を駆使した新産業育成
 - 高度道路交通システム
 - 新たなものづくりシステム
 - 統合型材料開発システム
 - 地域包括ケアシステムの推進
 - おもてなしシステム
- ⑤ 農林水産業の成長産業化
 - スマート・フードチェーンシステム
 - スマート生産システム

第5期科学技術基本計画に掲げられた課題等への対応

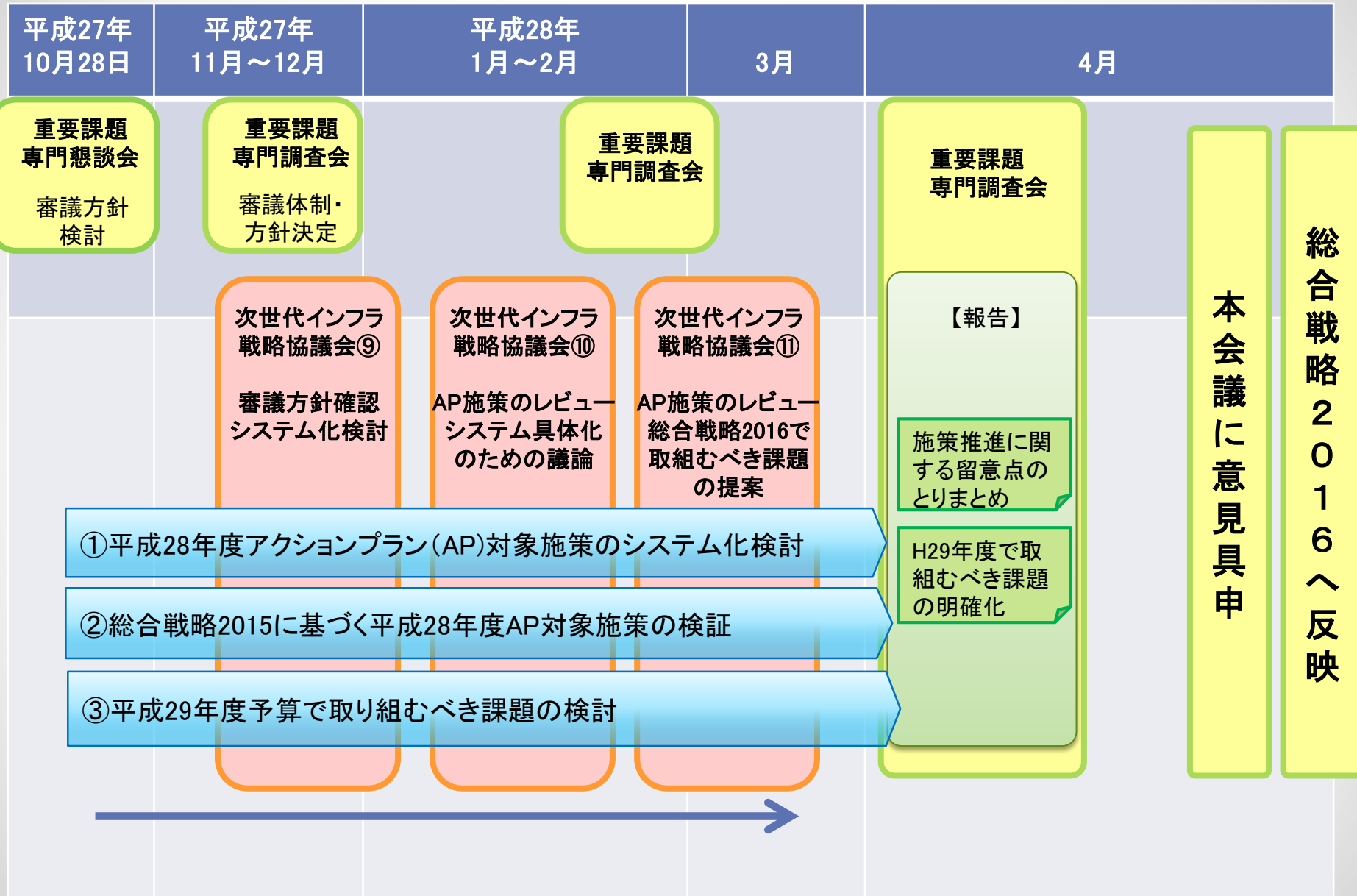
- 3章
- (1) 持続的な成長と地域社会の自律的な発展
 - ① エネルギー・資源・食料の安定的な確保
 - ・ エネルギーの安定的な確保とエネルギー利用の効率化
 - ・ 資源の安定的な確保と循環的な利用
 - ・ 食料の安定的な確保
 - ② 超高齢化・人口減少社会等に対応する持続可能な社会の実現
 - ・ 世界最先端の医療技術の実現による健康長寿社会の形成
 - ・ 持続可能な都市・地域のための社会基盤の実現
 - ・ 効率的・効果的なインフラの長寿命化への対策
 - ③ ものづくり・コトづくりの競争力
 - (2) 国及び国民の安全・安心の確保と豊かで質の高い生活の実現
 - ・ 自然災害への対応
 - ・ 食品安全、生活環境の保全、労働衛生の確保
 - ・ サイバーセキュリティの確保
 - ・ 国家安全保障上の諸課題への対応
 - (3) 地球規模課題への対応と世界の発展への貢献
 - ・ 地球規模の気候変動への対応
 - ・ 生物多様性の減少への対応
 - (4) 宇宙・海洋空間の開発、利用

- ◆ 詳細は戦略協議会、WG等を設置して検討する(赤字:次世代インフラ戦略協議会の検討対象)

各戦略協議会等の検討対象

	第5期科技基本計画関連	総合戦略2015関連
エネルギー戦略協議会	エネルギーの安定的な確保とエネルギー利用の効率化 資源の安定的な確保と循環的な利用	エネルギーバリューチェーンの最適化
次世代インフラ戦略協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効率的・効果的なインフラの長寿命化への対策 ・ 自然災害への対応 ・ その他社会基盤関係 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効率的かつ効果的なインフラ維持管理・更新の実現 ・ 自然災害に対する強靱な社会の実現
新産業戦略協議会	ものづくり・コトづくりの競争力 陸上交通関係	高度道路交通システム 新たなものづくりシステム
農林水産戦略協議会	食料の安定的な確保 その他農林水産関係	スマート・フードチェーンシステム スマート生産システム
環境WG	資源循環と環境保全 地球規模の気候変動への対応 生物多様性の減少への対応	地球環境情報プラットフォームの構築
地域における人とくらしのWG	地域包括ケアシステムの推進	地域包括ケアシステムの推進
システム基盤技術検討会	第2章関連 基盤技術検討会の成果関連	おもてなしシステム（CPS基盤中心）
ナノテクノロジー・材料基盤技術分科会	第2章関連 基盤技術検討会の成果関連	統合型材料開発システム

平成27年度 次世代インフラ戦略協議会のスケジュール



平成27年度の次世代インフラ戦略協議会の任務

①平成28年度アクションプラン(AP)特定施策等のシステム化検討

「インフラ維持管理・更新」と「自然災害に対する強靱な社会」を構成する個別のシステムが構築されているか、2のシステムの相互連携及び他の9のシステムとの連携の在り方を**議論する**。

②総合戦略2015にもとづく平成28年度AP対象施策の検証

7～8月に行ったAPヒアリング後の各省の準備状況の報告を受け、総合戦略2015の枠組みの中で、施策推進に関する留意点を**助言する**。

③総合戦略2016にまとめる平成29年度予算で取り組むべき課題の検討

第5期科学技術基本計画を踏まえて、今後取り組むべき施策を検討し、総合戦略2016に取り上げるべき課題を**提案する**。

第6回重要課題専門調査会（懇談会） （平成27年10月28日開催）における専門委員からの主な意見

- ・システムという観点から情報共有をすることは重要
- ・官民間問わず組織内での縦割りが原因で、コンポーネントでしか開発が走らず、システムの取組というのが非常に日本は遅れている。CSTIがシステムを示して、各省庁の関係する取組（コンポーネント）が、将来的にシステムとしてつながるような連携を今からやることが重要
- ・サービスの高度化とコストの抑制という一見矛盾する要望であっても、包括的に対応できる課題解決を技術革新等によって提示していくことが必要
- ・超スマート社会の共通基盤プラットフォームを作るためには、どの様にその共通基盤を使っていくか、あるいはそれぞれのシステムからどのようなニーズがあるかを知ることが必要
- ・供給側だけではなく、ユーザー側のニーズからシステムを組立てていくことが重要
- ・システムをつくったときに、それを実装するためのビジネスモデルが無いと、システムはできて回っているけれども、いつまでも国のお金が入らないモデルになってしまう。ビジネスクリエーター的なアイデアを埋め込んでいくことが必要

平成27年度の次世代インフラ戦略協議会の議題

回数	予定時期	(1) 総合戦略2015による 平成28年度アクションプラン 特定施策の推進	(2) 総合戦略2016として 平成29年度予算で 取り組むべき課題の明確化
第9回	12/25 (金)	◆ 特定過程の検証	◆ システムの具体化、システム同士の連携について議論
第10回	2/5 (金)	◆ 各省施策をピックアップしてその推進について検討	◆ システム具体化のための話題提供と議論
第11回	3月上旬	◆ 各省施策をピックアップしてその推進について検討	◆ 総合戦略2016で取り組むべき課題を提案



施策推進に関する
留意点のとりまとめ



平成29年度予算で取
組むべき課題の明確化